



2021年12月10日

各位

会社名 株式会社ハイレックスコーポレーション
 代表者名 代表取締役社長 寺浦 太郎
 (コード番号 7279 東証第2部)
 問合せ先 経理グループ担当執行役員 芦田 安功
 (TEL 0797-85-2500)

通期連結業績予想と実績の差異ならびに個別業績と前期実績との差異に関するお知らせ

当社は、2021年9月3日に公表しました2021年10月期(2020年11月1日～2021年10月31日)通期の連結業績予想と実績に下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。あわせて、個別業績におきましては予想を開示しておりませんでした。前事業年度の実績値と比較して差異が生じる見込みとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 2021年10月期の通期連結業績予想数値と実績との差異(2020年11月1日～2021年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	221,700	3,500	5,800	6,100	160.45
実績値 (B)	217,754	685	3,032	4,896	129.08
増減額 (B - A)	▲3,945	▲2,814	▲2,767	▲1,203	—
増減率 (%)	▲1.8	▲80.4	▲47.7	▲19.7	—
(ご参考) 前期実績 (2020年10月期)	195,784	▲952	188	▲3,513	▲92.42

差異の理由

通期(2020年11月1日～2021年10月31日)の連結売上高は、世界的な半導体の不足による自動車メーカーの減産影響が想定より拡大したことから前回発表予想比39億4千5百万円減少いたしました。一方、利益面におきましては、前述の減産に伴う操業度の低下、世界的な鋼材・非鉄金属および樹脂材コストの高騰、世界的なコンテナ不足・船便遅れ対応に伴う輸送コストの増加、コロナウイルス影響による労働者不足に伴う生産効率の低下および人件費増加の影響が想定より拡大し推移したため、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表予想比で減少いたしました。

2. 2021年10月期の通期個別業績と前期実績との差異(2020年11月1日～2021年10月31日)

	売上高	経常利益	当期純損益	1株当たり 当期純損益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A)	44,981	2,742	▲471	▲12.40
実績値 (B)	48,076	3,169	3,736	98.50
増減額 (B - A)	3,095	426	4,207	—
増減率 (%)	6.9	15.6	—	—

差異の理由

通期(2020年11月1日～2021年10月31日)の個別売上高は、世界的な半導体供給不足の影響による自動車メーカーの減産影響はあったものの、前年度の新型コロナウイルス感染症による大幅減産からの回復により、前年実績を上回りました。経常利益については、世界的な材料コストの高騰および物流コストの増加影響等がある

ったものの、主に前述の売上高が回復した影響等により前期実績値を上回りました。当期純利益は、経常利益に加えて、保有している株式の売却に伴い投資有価証券売却益 45 億 4 千 2 百万円を計上したことおよび関係会社出資金売却益 12 億 3 千 5 百万円を計上した一方で、実質価額の下落した一部の関係会社について関係会社株式評価損および関係会社出資金評価損をそれぞれ 6 億 6 千 6 百万円、15 億 5 千 3 百万円を計上したこと等により、37 億 3 千 6 百万円となり、前期実績値を上回りました。

以 上